

園だより2月号



YMCA オリーブ保育園
2023年2月1日 発行
園長 矢野 久美

今月のねがい

- *友だちとのやりとりの中でいろいろな思いを経験する。
- *友だち同士で協力する体験を重ねる。

讚美歌

- *きみが好きだって

一年の中で最も寒い2月になりました。

毎年の事ですが年を越すと子どもたちの目覚ましい成長を、肌で感じられるようになりま
す。先日も、たんぽぽ組(0歳児)の子どもたちが、ホールに向かって事務所の前を小走り
で走りぬけていく姿を目にしましたが、とても微笑ましい光景でした。自由に走れるよう
になったという“喜び”が子どもたちの表情から感じられ、その姿はキラキラと輝いてい
ました。

寒い中でもオリーブの子どもたちは、毎日のようにお散歩に出掛け、その元気いっばい
の様子は写真に収められ、日々クラスのホワイトボードに貼られています。

写真を見ながらその日にあったエピソードを、歓びをもって話してくれる保育者からは、
いつも子どもたちの生き生きとした姿を想像することができます。

その中の3歳児クラスのエピソードです。公園にお散歩に行く際に、斜面を滑るソリを
持って行ったのですが、全員分の枚数がなかったため、ソリを使う順番待ちをしている子
どもが数人いたそうです。そこで一人の子が、持っていたソリを、自分が滑る前にお友だ
ちに貸してあげました。しかし渡したことを後悔したのか、泣いてしまった姿を見て、ま
た別の子が自分の持っているソリを手渡したそうです。

3歳児らしいその素敵なエピソードを事務所の中で数名の職員が聞いていたのですが、
感動で部屋が一気に温まりました。そして、この感情や行動にたどり着くまでの、子ども
たちの心の動きを大切にしたいと改めて思いました。子どもたちは何気ない日常の中にこ
そ、心を育む瞬間があり、毎日の生活の中でお友だちの気持ちを感じたり、自分の気持ち
をぶついたりしながら、優しい心根が大きく育っていくのだと確信しています。目に見え
て何かができるようになったりする事も嬉しい出来事ですが、
生きていく上で本当に大切なことは、
目には見えないものなのかもしれませんね。

子どもたちはいつも太陽のような存在となって、
私たちの心を照らしあたためてくれていることに
心から感謝し、目には見えない大きな成長をしっかりと
感じながら春を待ちたいと思います。

